

NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム事業（NITS カフェ in くだまつ）開催要項
（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 研修会、NITS 山口大学センター東部地区研修会）

～ 教職員の学びと育ちを支える！ 子ども理解と関わりの力をつける！ ～

1 趣 旨

教職大学院を中心とした大学と教育委員会が連携し、指標をふまえた教職生活全体を通じた教員の資質能力形成が求められている。教職大学院や教育委員会関係者、現職教員、地域等関係者が一堂に会し、「カフェ形式」で語りあうことをとおして、教職員の成長支援のあり方や教育指導、特に生徒指導に関する資質能力の向上を図る。

2 主 催

独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）

3 共 催

山口県教育委員会、下松市教育委員会（予定）

4 開催日時

令和4年11月5日（土） 10:00～17:00

5 開催場所

スターピアくだまつ（下松市文化会館）3階「会議室」他
〒744-0025 山口県下松市中央町21-1 TEL 0833-41-6800

6 参加者

現職教員、教職大学院生、教育委員会関係者、地域住民、大学関係者 等

7 研修内容等

(1) 開会行事 (10:00～10:10)

あいさつ	山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻	専攻長	佐々木 司
あいさつ	山口県下松市教育委員会	教育長	玉川 良雄

(2) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク） (10:10～12:00)

テーマ 「教職員の学びと育ちを支える！
～私のリアル教職生活！若手・中堅を励ますピア・サポート交流会（Café）～」

指導助言者 山口県教育庁教職員課 主査 吉川 和夫
ファシリテーター 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻教員等

（昼食休憩）

(3) 講演 (13:00～16:00)

演 題 「教育活動に活かすコーチングを学ぶ
～ 不登校等の問題解決の糸口を探すために～ 」

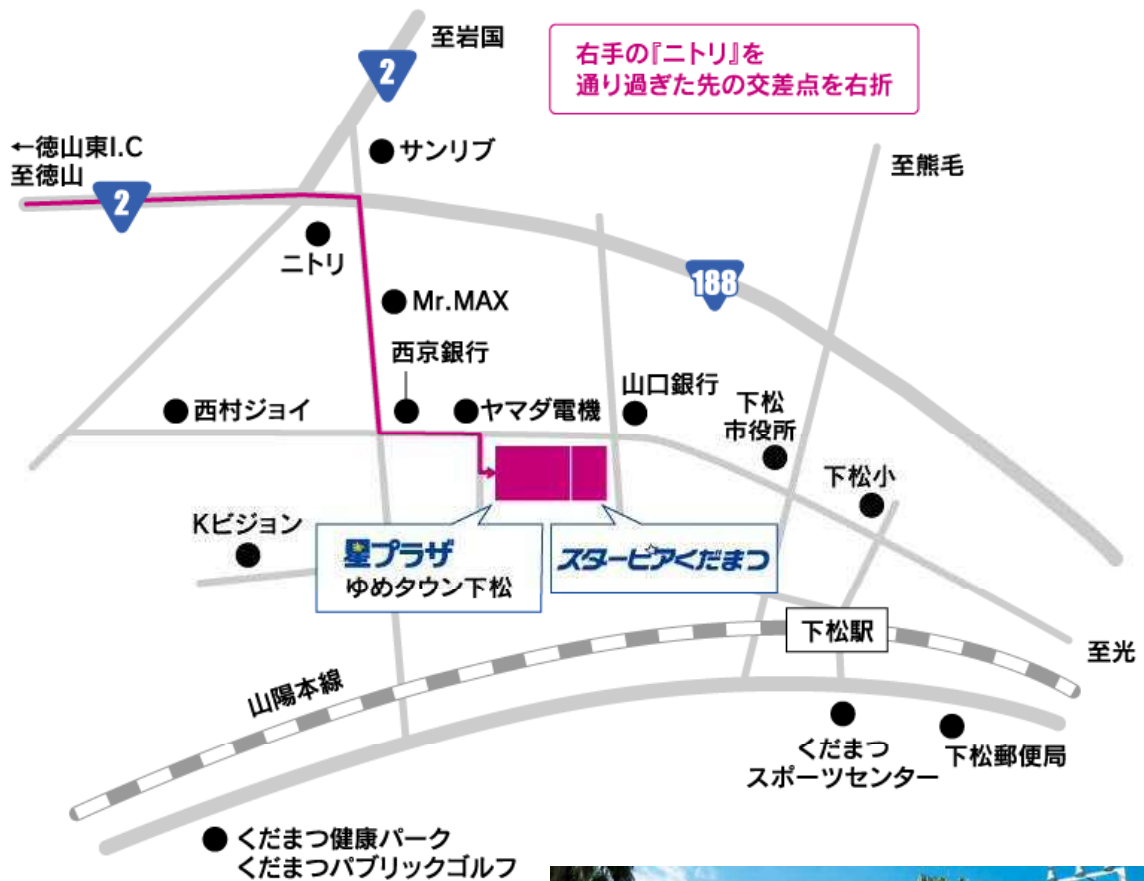
講 師 ナラティブコミュニケーション教育研究所 所長
別府大学 客員教授 佐藤 敬子 さん

(4) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク） （16:10～16:50）
テーマ 「佐藤敬子先生のご講義から学ぶべきこと」
ファシリテーター 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻教員等

(5) 閉会行事 （16:50～17:00）
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二

8 その他

- (1) 本研修事業は、地元下松市をはじめ県東部地区教職員等に公開する形で実施する。
- (2) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「令和4年度 NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」受託経費により運営される。
- (3) 今後の「新型コロナ」ウィルス感染動向や開催地の状況等に応じて、開催形態の変更（オンライン研修等）、延期や中止の場合がある。





時代を捉えて、社会を見つめて、自他の幸福から志を立てて！ ものごとの本質を捉えて共に歩ける人として生きる！



10月15日(土)午前、JR新山口駅直結の「KDDI 維新ホール」研修室を会場に「第4回研修会」を行いました。

青空が広がり、秋の空気が心地よい爽やかな一日。現職教員29人、院生13人、講師・県教委・大学関係者等20人の計62人が参加して山本健慈先生の講演とQ&Aタイムを行いました。会場には、山本健慈先生と大阪府泉南郡熊取町「アトム共同保育園」を設立なさり、地域の保育や子育て支援の充実、共同保育・学習の振興に取り組んでいらっしゃる「アトム共同福祉社会」の市原悟子理事長さんも駆けつけて下さり、「地域・当事者目線」の豊かな研修会「Co-fort研修」として頂きました。概要を報告します。

講義「志ある若者を励ます ～大学・組織経営者として考えること」



国立大学協会 参与

学校法人大阪観光大学 理事長 山本健慈さん

京都大学大学院(博士課程)から和歌山大に進まれ、同大学長として、また国立大学協会役員として大学改革や教育改革を牽引されてきた山本先生。同時に「大人が育つ保育園」で有名なアトム共同福祉社会保育園を核に、地域の共同学習・協働活動や社会教育振興に大活躍。「神」です(^^)

お話では「ちゃぶ台」を価値づけて頂いた上で、教育・子育てから大学・組織経営、人材育成まで、先生の history を紐解き、人との出会いを紡いだお話を頂きました。ありがとうございました。

受講生のコメントから

「人生は自己紹介の連続である」。ご講演で最も印象的な言葉、これから大切にしていきたい言葉です。講演を通して「人は何によって動くのか」を学びたいと考えていました。そして、答えの一つは「他者への関心」なのではないかと感じています。先生は思いや考えが一致している人以上に、一致していない人への興味・関心が高いように感じます。常に他者の人柄や、思いや考えに興味・関心を持たれ、寄り添っておられる。他者への関心があるからこそ、その他者は先生ご自身に、そしてその思いや考えに興味・関心を抱くようになる。まさに「人生は自己紹介の連続である」にあるように、他者への関心と自己開示の連続であり、それを通して互いの理解が進み、目的が共有され、そしてその目的に向かって協働するようになるのだと感じました。先生の他者への興味・関心、そしてつながりたいという思いが周囲をその気にさせ、その人の自己肯定感の高まりとなり、結果として人を変えていくのだと。「他者への関心」はシンプルかつ最も効果的な手立てだと感じます。実践につなげていきたいと思えます。(中学校)

III 教育とはなにか? 子育てとはなにか?

・2009年7月 教員としての最後の講義と受講者の反応。

・教育とは、子育てとは、彼彼女の人生を応援することなんだよ。

・生涯学習とはいけれど⇒生涯相互支援の組織、地域、コミュニティを。

★あなたは、目の前の子ども(ひと)のいまだけではなくて、過去、未来の人生をみてますか。

保育園・保育者は、親と子の育ちに5~6年間同伴していると、「その子の人生、家族の未来が見える」と感じる時がある。その子はどんな時、どんな場面つまづくか。そしてその時家族が、どのようなトラブルに直面するか、また立ち向かえるかが見えるのである。この認識が保育園・保育者だけに止まっているわけではない。(金田等編著『家族援助を問う』同文書院 2004年刊)。

■私の志の形成過程 自己紹介 人生は永遠の自己紹介である(個体のなかにある多様性)。

1) 15歳まで山口県で 貧困と戦争が身近にあった。

★1948年山口県玖珂町で生まれ、小学6年生まで(1961年3月)。

・山口県養蚕試験場 広い桑畑、出入り自由な交差点(中卒青年も)。

・なにを感じて育ったか 理不尽への怒り・民主主義。

貧困、炭鉱事故、戦争と平和 4年生 5:6年生の担任。

★61年4月大内町(当時)大内中学校へ(63年12月)。

・63年山口国体 全国一斉学カテスト(中1、中3)。

・伊藤美代子先生との出会い(中学校長をへて山口市教育委員長等)。

★64年1月滋賀県野洲中学校 転校手続きの際の校長の対応にびっくり。

★64年4月滋賀県立膳所高校入学。

・ベトナム戦争。

・早稲田大学学費闘争(教育社会学者・永井道雄を知る)。

理不尽の是正、正義の実現:ジャーナリストに。

⇒1967年11月京都大学入学 学生運動のなかで 研究者に。

2) 和歌山大学教員 1977年~2009年7月 社会教育・生涯学習を現場で市民と考える。

1998年~2008年 生涯学習教育研究センター長 100回の「なまけん会」。

「社会教育」とは何か・・・市民の経験に言葉を与える。

3) 1988年8月より無認可共同保育所から社会福祉法人設立(2003年)へ。

★未熟な保育士、未熟な親でいいじゃないか。

★志、実践の発信と共感の広がり。

情報(志)の発信⇒発信受信による共同学習⇒新たな水準での合意の形成。

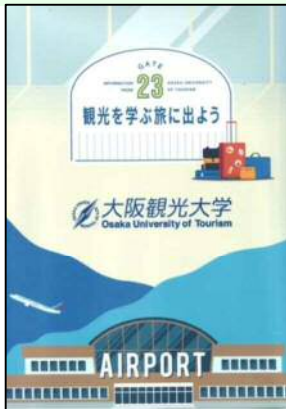
★公立保育所の「民営化」と無認可共同保育所の「認可化」(公費投入化)。

10の約束

<p>I 現代社会を生かすための楽しむ力・生かす力を備えた世界市民を育成します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他者と主体的に協働することのできる人間関係を育てます。 ● 楽しさを享受し現代社会を生かすための能力を育みます。 ● 多文化共生、異文化への理解を深めるための教育を充実させます。 ● 小規模大学の特色を生かし、入学前の就学準備から卒業後の進路選択までを支援します。 	<p>IV 多様な文化的背景をもつ学生の大学生活を応援します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経済的困難を抱える学生を支援します。 ● 働きながら学ぶ経験を生かせるように応援します。 ● 多国籍、多文化の背景をもつ学生の学修と交流を応援します。 ● 日本語を母語としない学生の学修と生活を応援します。 ● 障がい等さまざまな課題を持つ学生を、専門家の関与を得て教職協働によって支援します。 	<p>VII 地域を支え、地域に愛される大学としての活動を進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同市内にある大阪体育大学、関西医療大学等周辺大学との連携・協働により地域の高等教育の発展に寄与します。 ● 熊取町、泉佐野市をはじめ地域・自治体、生徒、住民との連携・協働を進めます。 ● 地域の国際化、多文化交流に貢献します。 ● 地域住民が大学の様々な機能を利用できるように施設整備を行います。 	<p>X 社会から信頼される大学経営を行います</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権・コンプライアンスに配慮し、透明性ある経営を行います。 ● SDGs の実現等の地球規模課題解決に寄与する大学経営を行います。 ● 充実した教員の研修、職員の研修、教職協働の研修に取り組みます。 ● 経営者層は、不断の研鑽により時代と社会に応える経営のあり方を追求します。 ● 女性教職員の大学運営の意思決定への関与を拡大し、男女共同参画の実現を目指します。
<p>II 観光に対する市民の欲求の健全な実現と発展を支える人材の育成に取り組みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光学教育を牽引する大学にむけて、これまでの観光学部、国際交流学部の2学部体制を刷新し、国際交流学部1学部体制に再編成します。 ● 観光学研究所を改組した観光学研究所センターに教育・研究支援、地域・産学連携にかかわるコーディネーターを配置し、教育、研究、社会連携の発展的発展を目指します。 ● 防災事業体、公共機関等多様な場で活躍できる観光人材を育てます。 ● 魅力ある観光地の創造と観光行動を支援できる人材を育てます。 ● キャリア教育やインターンシップを通じて、一人ひとりに寄り添った観光業やサービス業等への就職支援を行います。 	<p>V 学びを求め続ける世界の若者や社会人を迎え入れます</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受験生の気持ちに寄り添った丁寧な大学案内を行います。 ● 個々の意欲を引き出し、多面的に評価する入学選抜を行います。 ● 観光立国・日本での学びを求める世界中の若者を積極的に迎え入れます。 ● 世界に向けた情報発信を強化し、大学のみならず地域の魅力を伝えます。 ● 大学進学を目指す留学生の学びをサポートする日本語別科を運営します。 	<p>VIII 教員、職員、学生等の参加で教育、研究、組織を不断に自己改革します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員と職員が対互いに敬重(リスペクト)をもち、教職協働で教育等業務を遂行します。 ● 学生への信頼と期待にもとづき、大学運営への参画を保障します。 ● 卒業生、地域、観光事業の発展に関心をもつ人々の声を耳を傾け改革を進めます。 ● 観光学教育、観光事業、観光政策等に携わる専門家とメンバーとするアドバイザリーボード(諮問委員会)を常設し、教育、研究、組織の在り方の自己改革を図ります。 	<p>IX 自立自走できる経営を確立し、教育研究環境を整備します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健全財務の確立により、「経営指導法人」から脱し、自立経営を実現します。 ● 私学協賛体等と連携し、私学の公費助成等教育研究の制度等に取り組みます。 ● 教職員の適正な賃金保障を含む労働条件、教育研究条件の改善に取り組みます。 ● 老朽化した施設等を計画的改修しエコキャンパス化にむけた施設整備を行います。 ● オンライン授業等が円滑に行えるよう情報環境を整備します。
<p>III 新しい観光学を確立することにより観光事業の過去・現在を解明し未来を展望します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本学教員は、それぞれの専門分野の立場から先端的観光学研究の一端を担うとともに、その研究成果を生かした観光学教育の発展に寄与します。 ● 観光学の発展を通じて、世界平和および持続可能な健全な地球環境の維持と地域社会の発展に貢献していきます。 ● 国内外の観光学研究者、観光系大学、大学院と連携し、高度観光人材や観光学研究の発展を進めます。 ● 国連認証の獲得など観光教育機関としてのグローバルかつ高度な社会的評価の獲得を目指します。 	<p>VI 同窓会と連携し、学生の生涯を応援します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同窓会を支援し、在学生と卒業生の交流を促進します。 ● 卒業生の連携を強化し、学生のキャリア形成を応援します。 ● うらなる「学び」やキャリア実現を希望する卒業生を支援します。 	<p>IX 自立自走できる経営を確立し、教育研究環境を整備します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健全財務の確立により、「経営指導法人」から脱し、自立経営を実現します。 ● 私学協賛体等と連携し、私学の公費助成等教育研究の制度等に取り組みます。 ● 教職員の適正な賃金保障を含む労働条件、教育研究条件の改善に取り組みます。 ● 老朽化した施設等を計画的改修しエコキャンパス化にむけた施設整備を行います。 ● オンライン授業等が円滑に行えるよう情報環境を整備します。 	<p>教職員行動指針</p> <p>私たち教職員は.....</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生の成長を第一に考えます。 ● 法令・規則を遵守します。 ● コミュニケーションと情報共有を徹底します。 ● 主体性を持って責任を全うします。 ● 創意工夫によって新しい取り組みに挑戦します。 ● 学生にとって良き模範となるよう行動します。

山本先生の考え方は生き様がカッコよく、自分の考えを貫く強さと共に、仲間や時代性、社会性からの視点に常に自分の考えを調整していくしなやかさの大切さをお話し頂いたように思います。如実に現れていたのは、あの「教職員行動指針」に先生のお考えが入っていないということです。

今の職場は本当に個人を大切にしてくれて、行政とはいえど変な硬さは全くありません。自分の考えに自信を持って発信できる反面、自分に対する批判性を意識的に獲得していくこと、自分自身がさらに学んでいくこと、この2つがなくてはならないと感じています。強くしなやかに、子どもたちの幸せという共通目標のもと、行政においても働いていきたいと思えます。(教委指導主事)



Q&A タイムから 「相手をギャフンと言わせようとは思わない」、「何か、これまでの経験やキャリアの中での出来事などにより、そう考える本人なりの理由がある」等、Q&Aの中で印象的な言葉が発せられました。

先生の幼少期や学生時代の経験から、背景や歴史、経験が違うために、違うセンサーがついており、判断が違ってくるといふ「多様性」の本質とも言うべき部分を、自然に、深く理解されておられることを感じます。先天的とまでは言えないが、本当に自然に呼吸するように「誰とでも対等に、誰とでも目線を合わせることができる人間性」を発揮されていると感じました。残念ながら、私自身は、そこまでの境地に達していませんが、めざすべき方向、道標だと考えています。

「相手の立場や目線を大切に」、「よく言われる言葉であり、よりよく実践できるようになった」という自己評価をしていました。しかし、先生のお話を聞く中で、より一層の改善を図る必要性を感じました。「大切に」ではなく、「自然とできる」、「当たり前」にできる状態をめざしたいと思います。理想は、「大切だからしている」ではなくて、そういう関係性がある状態を意識しないこと(うまく言い表せていません)だと思いました。(中学校)

Q&A タイムから 印象に残ったのは、「自分がこうしたい、こう在りたいをもっと表現して良い」ということです。Well-being の考え方を若い頃より持ち続けていらっしやると感銘を受けました。「自分の幸せ」「相手の幸せ」「組織の幸せ」の合意形成を楽しんでいらっしやるんだろうと思いました。「私のやりたことはなにか」「先生たちの幸福とはなにか」「子どもたちにどう育てほしいか」という原点に帰って、また実践を頑張りたいと思えます。(中学校)





共有します！「山本健慈先生への問い」

今回の「ちゃぶ台」では、「山本先生への問い」を事前収集し、ご講演の中にも盛り込んで頂きました。きっと山本先生は大変だったろう！と思いますが、先生、ありがとうございました。しかし、実に幅広い、核心的な、ユニークな「問い」が多数寄せられました。「仲間たちがどんなことを考えているんだろう？」

「どれほど豊かな発想、視点があるんだろう？」 参考になると思いますので、仲間で共有します！

分類等は事務局でざっくりとさせて貰いました。「意図と違うぞ！」もあろうかと思いますが、どうぞご容赦下さい。 多数のメール、ありがとうございました。



組織づくり、マネジメント

- 1 教職員が主体的に職務を遂行するために、組織づくりをされるうえで大切にされていることについてお聞きしたい。「組織を動かす」ことは、容易ではない。ましてや目標を共有し「主体的」に動く組織を作ることとは小さな組織であっても難しく、組織が大きくなるほどそれは厳しいものになっていく。現在、一番の課題と感じているのは、「人を動かす・組織を動かす」ことである。山本先生は、和歌山大学学長として、学生や教授陣、関係機関など多くの人を動かす、組織づくりをされてこられた。組織を動かす上で、山本先生の広い見識や充実した実践はもちろん、山本先生のお人柄も組織作りに大きく影響していると考えますが、「人を動かす」時に、特に大切にされていることをお聞きしたい。
- 2 組織を動かす、事業を行うときに、自然とうまく物事が回っていると感じるような体験がおありでしょうか。私自身、この方と一緒に絶対によくいくという不思議な確信が得られる方々がいらっしゃいますが、前向きなエネルギーの正体を探ってみたいと思っています。
- 3 協働するためには、課題の共通認識が大事だと思います。しかし、多忙な業務の中、課題の共通認識のないまま、「何をやる」「どうやる」の話をすることが多いです。教員それぞれが課題を認識し、協働していく手始めの第一歩は何でしょうか。
- 4 本質的なことを見抜き、対応していくことができれば、徐々に人や組織が変わっていく（成長していける）のだと感じています。本質を見る眼を鍛えるにはどのようなことが必要ですか（山本先生はどのようにそれを磨かれてきましたか）。表面的なことにこだわったり、上辺だけを整えようとする、またはそんなこだわりもなくこれまでの慣習通りにやる人も多いです。
- 5 組織づくり、またその組織を動かしていくときに、大切にしていること
- 6 人は何によって動くのか。「ビジョンの共有」や「損得感情」もあると思います。特定できるものではないかも知れませんが、これまでの経験より感じておられることを教えていただけたら。
- 7 若手教員とプロジェクトを推し進める際、若手教員の強みを引き出し充実感を味わわせる手法をお聞かせ願いますか。
- 8 ベテランの発言力が強すぎて(校長を上回る場合もある)、中堅、若手の良い面がうまく出せてない場面を目にする。若手、中堅、その他のベテランがどのように動けばより良い組織作りに繋がるのか
- 9 上の立場の人から見た、役に立つと感じる部下の特徴
- 10 たくさんの「群」で生活されてこられた山本先生だと思いますが、一番印象に残っている「群」での衝突は何ですか。
- 11 学級経営や学校をもっとオープンにしていくために一人の教員としての心構えで大切なこと



生涯学習、人々の学びと社会教育、学校教育

- 12 現代における人間関係の希薄化・コミュニティの機能の低下がある中で、社会教育における分野にお

いて、どうやって大人に人と関わる力を伸ばす機会を与えるか。また与えられるか。大人や親の人と関わる力が教育格差に繋がる要因の一つであると考え、教育格差を是正するための地域や教育の魅力化について詳しくお話を聞いてみたい。

- 13 山本先生は社会教育のめざすところをどうとらえておられますか。さらに、変化の多い社会の中で、社会教育のめざす方向性は今後変わっていくのでしょうか。
- 14 持続可能なコミュニティをつくっていくためには、若い世代と地域の関わりを増やすことが課題になると考えます。若い世代を地域のコミュニティの中に取り込んでいくためのよい方法があれば教えてください。
- 15 山本先生のご経験から、人は「群れ」から多くのことを学ぶとお考えですが、近年の「オンライン上の群れ」での学びについてどのようにお考えですか。
- 16 コロナ禍で学生たちの体験活動や課外活動が制限され、人と関わる力に課題が出てくるのが懸念される。コロナ禍において、地域と学校、大学が交流するために工夫されたことを教えていただきたい。
- 17 これからの時代、学歴ではなく学習歴が大切にされるようになると思う。そうすると学び続ける人を学校教育においていかに育てていくかが問われる。学び続ける人を育てる学校教育を実現するために必須の要件について
- 18 生まれ育ったふるさと（岩国市玖珂町）について、県外に出られた後で意識したり思い返したりすることはあったか。また、山本先生の人生の中で、玖珂町での生活体験がどのように息づいているのか教えていただきたい。
- 19 中学校区（地域）の教育環境を整えていくために、中学校が果たす役割について。資料「ダメな親でもいいじゃないか」中の、保育所での取組が大変興味深く、また共感できる内容が多くありました。中学校教員である私としても、小学校と連携、またその先の幼稚園・保育園との連携が意義あるものだと感じています。そこで、幼稚園・保育園や小学校とは異なり、中学校が果たす役割はどのようにお考え、感じておられますか？
- 20 地域の教育環境を整えていくため、充実させていくために、中学校は核となり得るのか。これからの未来を生きていく子どもたちに、多様な経験をさせるために、学校において多様な学びが必要だと感じています。中学校区においても、小学校や地域と連携して、生徒に多様な学びを創出していきたいと考えています。また、幼稚園・保育所または公民館（社会教育）、そして企業等、あらゆる資源を活用できないかと模索しています。その際、コミュニティ・スクールは、中学校区を基準に考えられているが、中学校は核となり得るのか。

この国の教育に対する思いと自身の生き方、生き様、人生の岐路と決断

- 21 中学時代に抱いておられた「教育現場の理不尽さ」について、もう少し詳しくお聞きしたいです。また、その時の「理不尽さ」が今の教育現場ではどのように変化しているか、先生の感じておられることをお話いただけたらと思います。
- 22 日本の教育が世界に対して誇れること、日本の教育が世界を見習わなければならないことの両面から、お考えのことがあればお伺いしたいです。
- 23 絵子ども数、そして人口も減少していく中、これからの日本の教育はどこを目指していけば良いのでしょうか？
- 24 令和の日本型学校教育は、うまくいくと思われませんか。その結果、どのような子どもたちが育っていくと思われませんか。
- 25 山本先生のこれまでの人生のターニングポイントをお聞きしたいです。大きな決断をする時の考え方（勇気、責任、決断力等）を参考にさせていただきたいと思います。
- 26 社会が変化する中で、世間の教育に関する価値観は大きく変わっていると思います。その中で教育の世界で長く活躍されている山本先生はどのようにして教育の価値観をアップデートし続けているのかが知りたいです。
- 27 先生はご自身の役割や使命を明確に認識されていらっしゃるように思います。山本先生のその使命感

の源は何ですか。

28 教員生活で一番達成感を感じた出来事はどのようなことですか？

大学の地域貢献、社会的使命、大阪観光大学に関すること

29 大学が地域連携をしていく上で、解決したいけど解決できない課題。大学の地域連携の実際と理想。

30 和歌山大学が地域と連携するために具体的に実践されていることについて教えてください。

31 和歌山大学のスローガン「和歌山大学は、生涯、あなたの人生を応援します」のもと、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。

32 教職員の地域愛をどのように醸成されておられるのか。

33 お仕事と、プライベートの時間配分や、棲み分けをどのように決められていますか。



構成員の意識改革、人材育成と求められる資質能力

34 2年前と現在の大学職員の意識の変化。民事再生手続き中の2年間で、職員の意識をどのように変え、そこから大学がどのように変わっていったのかをお聞きしたい。

35 教職員の所属意識をどのように醸成されておられるのか。

36 今の時代の大学生の特徴は？彼らが社会に出て来る際に、受け入れる私たち（中堅期の社会人）は、どのようなことに配慮したらよいか、山本先生の人材育成観をお聞きしたいです。

37 数校で交流を行う（小小、小中）上で教員によって交流に対する熱量の違いが大きい。校長のリーダーシップの重要性を感じているが、教員レベルで何か熱量の差を埋める手立てがないか知りたい。

38 「今の時代、これからの時代」に若手、中堅、ベテランに必要なものはなにか、また必要になってくる力は何か

39 若手の育成において、最初の学年集団や主任、お世話になった教員の影響がかなり大きく、マイナス面（やることについて反発、自分事として扱わない、担当のみに任せるなど）が2校目以降に現れ改善が難しい。上手く指導し改善する上で気を付けることのヒントがほしい（ハラスメント対策）

40 人材育成のために心がけていること 気をつけていること

41 教員の研修の在り方について、現在の中教審での議論についてどのように評価されますか。また、教員の研修はどのようにあるべきと思われますか。

42 「ダメな親でもいいじゃないか」の中で紹介されていた「群れのある保育所づくり」「トラブルを栄養にする」という見出しのお話を特に興味深く読みました。

この方針を貫くためには保育所で働くスタッフにも方針の理解と知識、共通認識が求められると考えました。どのようにスタッフ教育を行っていらっしゃるのでしょうか。

43 事務、工務技士、養護教諭、栄養教諭などいわゆる一人職との連携や教育活動への参画出きるようにするための手立てや心構えや知っておくべきことがあれば知りたい。

44 今の若手に必要なことは？

45 数値化できる認知能力、数値化できない非認知能力があり、それぞれの能力を活用して仕事について活躍する人材によって社会は支えられていると思いますが、人と関わる力である非認知能力をどう評価しているのか。評価というのは学校現場の評定ではなく、あくまでも社会の中で人材を見極める場面を想定しています。任される仕事の内容や、所属する集団の役割であると考えていますが、これからの社会で求められる力も踏まえて人材育成の視点で評価について詳しくお聞きしてみたい。

保育・養育、家庭教育と子育て支援

- 46 今後、子どもの不安を抱えきれない、相談できない保護者が増えることを予想し、そのような保護者を支えていくために、学校としてできること。
- 47 5歳児の親として保育園への送り迎えをしている。私も含めて周りの親は共働き家庭が多く、保護者間のつながりづくりの場がほとんどない。また、親の都合で居住地からの近さではなく、勤務地からの近さを優先して保育所を決めている方が多いので、地域とのつながりもつくりづらい。ゆえに、保護者同士は互いの連絡先を知らず、保育所の友だちと保育所以外の時間で遊ばせることがない。全国的にもこのような保育所が増えているのではないかと危惧している。現代社会において保護者を巻き込む保育所経営の勘所について伺いたい。
- 48 保護者からの意見に対応をする際に一番心がけておくこと
- 49 PTA活動の組織や活動が簡素化されている今日、これからのPTAの在り方についてどのようにお考えになられているのかをお聞きしたい。
- 50 保護者と教職員が連携・協働して教育を行うことで、子どもたちへの教育の質は向上する。しかしながら、最近では保護者と教員は互いを知る機会は少なくなっており、PTA活動を批判的に捉える保護者も多い。加えて、若い教員の中には、保護者と関わることを苦手とし、PTA活動を負担に感じているものも少なくない。PTAの存在意義が問われている中、これからのPTA活動に求められていること、学校として大切すべきことなどについてお聞きしたい。
- 51 保育園では保護者同士のつながりがあるが、小学校、中学校と進学するにつれて保護者同士のつながりは薄くなっていくことが実感として感じられる。学校の様子を公開し情報を共有、悩みも共有すると保護者も協力的になるという話があったが、保護者が孤立化している中学校において、保護者を学校に取り込み、保護者同士のつながりをつくるためにはどのような視点が大切だろうか。1つは校長がリーダーシップをとり、積極的に情報を公開して保護者に赤裸々に悩みを語る教員を育成することだと思う。2つ目は、教育課程に保護者とともに学ぶ時間を設定したり、保護者のサロンを開いたりして保護者が学校に入る場面を設定することだと私は考えるがいかがか。
- 52 無認可保育所の非常勤所長として幼児期の子育て支援にも携わっておられるとお聞きしました（違っていたらすみません）。和歌山県の幼稚園問題をはじめ、昨今の幼児教育についてお聞きしたいです。

その他

- 53 初めて学校現場で勤める際の大切な心構えをお聞きしたいです。私がよく耳にすることは、「新採はとにかく目の前にあることを精一杯に取り組む」「失敗を恐れずに挑戦する、ってみる」です。
- 54 和歌山大学の学長をされている山本健慈先生と山口大学とのつながりをお聞きしたいです。どのようなきっかけで、山口大学のちゃぶ台にお越しいただいているのか気になりました。
- 55 学校教育の道徳科の実践において、人と関わる力を育成する本物の集団の学びに転化するための理念と方策について。もちろん学級経営が根本にあると思いますが、その学級における集団の学びと道徳科の授業との区別をし、それぞれの意義についての認識をお聞きしてみたい。
- 56 民事再生手続きを2年で終結させることができた一番のポイント。
特に、コロナ禍において観光産業は低迷している中、どのようにして再建できたのか知りたい。
- 57 私は地域の人々に愛される図書館づくりと観光にとっても強い関心を持っております。私の出身地の柳井市及び居住地の美祢市は、住民参加の”複合”図書館の新設を目指し、地域の方と「こんな図書館があったらいいな」という企画を数回行い議論を深めてきました。島根県立隠岐島前高等学校がある海士町等、学校を核とした地域連携教育が盛んなところは「人づくり」に向けた重点政策として、図書館事業もまた盛んであるという印象を持っています（海士町は島まるごと図書館構想を行っています）。そこで、「住民参加の図書館づくり、図書館運営」の論文を執筆されておられる山本先生に、ズバリ学校・地域・図書館の在り方についてお聞きしたいです。
- 58 「観光」について、「その土地の『光』を『観』る」と勝手に解釈しております。ズバリ、これまで関わって

- きた土地(玖珂町、大津市、京都市、和歌山市、熊取町・・・特に熊取町)の『光』を教えてください!食べ物、風土、文化、におい、こういう人がいた・・・例えば伝説のおばちゃん、など、何でも構いません。
- 59 私は生まれてからずっと山口県に住んでいるため、山口県、和歌山県など県が変わると教育観や教育現場の動き方、考え方が変わるのか、それとも県を跨いでも教育は変わらないのかが知りたいです。
- 60 おススメ、読んだ方がよいと思う本を教えてください。
- 61 和歌山に旅行行くならここだという場所 おすすめの飲食店も教えてください。
- 62 文科省は進学校における高校教育について、大学受験指導ばかりに目が向きがちであることを課題として指摘していますが、高校教育での受験指導と学び、授業の在り方などについて聞きたいです。
- 63 現在の大学生の現状と課題から見られる高等教育の課題
- 64 特に高等教育におけるコミュニティ・スクールの在り方
- 65 大阪観光大学の再建を引き受けた当初の苦労話
- 66 想像力や決断力、実践力の身につけ方
- 67 和歌山県の魅力やおすすめの食べ物
- 68 山口県をもっと活性化する方法は?
- 69 和歌山県と山口県の教育で、似ていると感じる点や異なると感じることはどのようなことでしょうか。
- 70 情報を公開することに力を入れる、きっかけなどがありましたら、教えてください。
- 71 中学生や大学生の時期に、ヘルプを出すことができる人になるために必要だと考えること。
- 72 和歌山県の教育から山口県の教育に応用できることがありますか。
- 73 多くの人に話を聞いてもらうときに意識していること、
- 74 子どもが自分の言葉で伝えられるようになるために集団の経験以外に大切なこと
- 75 落ち着きがない人や、集中力があまりない人を注目させるために、どのようなことをされているか
- 76 人と会話をするとき、しておいたほうが良いこと、逆にはいけないこと
- 77 教員生活の中で一番苦労したことはどのようなことですか?
- 78 図書館建設の想いや意図
- 79 今後の学校教育に求めるものは?
- 80 徳川吉宗は好きですか?
- 81 人に仕事や勉強を教えるときに意識されていること
- 82 人と話す時に気を付けておくべきこと
- 83 他県の教育施策と比べて特色がある教育施策はどのようなものですか?



次回「第6・7回」は「NITS カフェ in くだまつ」です!

公開講座 (NITS カフェ in くだまつ)のご案内

教職員支援機構 (NITS) 山口大学センター・山口大学教職大学院・山口県教育委員会が、県内を巡回して行っている教員研修講座で、今回は「下松市」での開催です。テーマは、午前が「若手の先生たちが主役の緩〜い座談会」、午後は「不登校を考える」...ご一緒にしませんか。

研修会名: 「NITS カフェ in くだまつ」(兼 ミドルリーダー養成講座「ちやふ台次世代コーホート Advanced Course (第6・7回研修会) 」)

主催: 山口大学教職大学院、独立行政法人教職員支援機構山口大学センター
共催: 山口県教育委員会、下松市教育委員会 (予定)

日程: 令和4年11月5日(土) 10:00~17:00 (開場・受付開始 9:30)

会場: スターピアくだまつ (下松市文化会館) 3階「会議室」(下松市中央町21-1)

参加者等: 自称(！)「若手」を含む教職員 (臨時任用の先生方も大歓迎)、教育関係者、大学教員等

研修内容: 午前: ワークショップ「私のリアル教職生活! 若手・ちゅうけんを動ますピア・サポート交流会 (Café) 」
午後: 講義演習「教育活動に活かすコーチングを学ぶ ~ 不登校等の問題解決の糸口を探るために~」

講師 ナラティブコミュニケーション教育研究所 所長 (文部科学省委員会委員、NITS中央研修講座等講師) 佐藤 敬子 さん

・参加申込が必要です。件名を「カフェ申込」として、「所属 (学校、教育機関・団体等) ・お名前」と午前・午後の参加予定)を e-mail でお知らせください。締切は 10月27日 (木) ですが、定員超過の場合はお断りすることがあります。

※ 午前・午後の「通し参加」を願いますが、ご予約がある場合は「午前のみ・午後のみ」の参加も可能です。

申込先: 事務局 (山口大学教職大学院 教授 霜川正幸) m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp

・実施にあたっては、主催者として、参加者の制限、入退場管理、会場の換気、参加者の健康観察とトレース等を行い、感染予防に万全を期しますが、下松市や周辺地域の感染状況や推移、「宣言発令・地域指定」等により、「オンライン研修への変更」や「行事自体を中止」とする場合があります。ご了承ください。

・リラックスしたカジュアルな研修会です。「普段着」でお気軽にお越しください。・駐車場は「星プラザ・ゆめタウン下松」駐車場等をご利用ください。

2022年度「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」実施要項

1. 趣旨

自立・向上・充実期にある若手・中堅教員（概ね教員経験3年以上）が、学校や地域の教育諸課題の解決に向けた教職実践と省察、課題研修やピア・サポート等を行うことにより、ミドル・スクールリーダーとしての資質能力の向上を図るとともに、教職実践課題の解決力や省察力の醸成を図る。

2. 主催 国立大学法人山口大学（教職大学院・教育学部）

3. 共催 山口県教育委員会、(独)教職員支援機構山口大学センター

4. 主管 国立大学法人山口大学（教職大学院）

5. 「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」の日程、内容、主たるテーマ、場所（予定）

第1回 令和4年6月25日（土） 13:00～17:00

@山口大学

山口県教育の現在地、教育政策・施策の実際

講師 山口県教育庁教育政策課 班長 今田隆之
山口県教育庁教職員課 主査 松嶋 渉



第2回 令和4年8月27日（土） 10:00～12:00

@山陽小野田市「不二輸送機ホール」

教職員のキャリア形成と成長契機（ワークショップ）

講師 山口県教育庁教職員課 管理主事 武居輝記
北海道小樽市立朝里中学校 校長 森万喜子

※会場・開催時間変更
12:30～17:10 オンライン研修

第3回 令和4年8月27日（土） 13:00～17:00

@山陽小野田市「不二輸送機ホール」

教職員研修の活性化と学校づくり

講師 広島県立呉三津田高等学校 校長 山田哲也
北海道小樽市立朝里中学校 校長 森万喜子



第4回 令和4年10月15日（土） 9:30～12:00

@山口市「KDDI 維新ホール」

大学・組織経営をふまえた教育界への期待

講師 和歌山大学 第15代学長、大阪観光大学 理事長 山本健慈

第5回 令和4年10月15日（土） 13:00～17:00

@山口市「KDDI 維新ホール」

令和時代の学校づくりとコミュニケーション能力

講師 教育実践研究家 菊池道場主 菊池省三



第6回 令和4年11月5日（土） 10:00～12:00

@下松市「スターピアくだまつ」

若手教員の学びと育ち、人材育成とピア・サポート（ワークショップ）

講師 山口県教育庁教職員課 管理主事 武居輝記

第7回 令和4年11月5日（土） 13:00～17:00

@下松市「スターピアくだまつ」

不登校、生徒指導上の諸課題とコーチングスキル

講師 ナラティブコミュニケーション研究所 所長 佐藤敬子

第8回 令和4年12月24日(土) 13:00~16:30

@山口市「KDDI 維新ホール」

教員としてのことば、表現と基本スキル

講師 アナウンサー (KRY 山口放送) 瀬川 嘉



第9回 令和5年2月11日(土) 13:00~17:00

@山口大学

会員相互、ゲストプレゼンターの実践発表、研究発表と交流

講師 会員相互、やまぐち総合教育支援センター長期研修教員等

第10回 令和5年3月18日(土) 13:00~17:00

@山口市「セントコア山口」

人権尊重と共生社会の創造、ネットいじめ、LGBTQ

講師 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 竹内和雄

宝塚大学看護学部 教授 日高庸晴



特設研 令和5年3月18日(土) 10:00~12:00

@山口市「セントコア山口」

1年間の振り返り

6. 実施方法並びに実施会場(予定)

- (1) 集合・対面型(山口大学、学外会場)に限らず、新型コロナウイルス感染状況等に応じて、オンライン研修型(Zoom、Webex等を用いた同時双方向通信)研修を導入することがある。

7. 受講者

(1) 受講資格

小・中・義務教育・高等・中等教育学校及び特別(総合)支援学校教諭等で、教職経験が概ね3年以上の者(20代後半から40代教員を想定)、県・市町村教育委員会事務局に勤務する者、教職大学院生等

(2) 受講申込

受講希望者は、プログラム事務局(m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp)宛に申し込む。

(3) 受講者決定

プログラム事務局において決定し通知する。研修プログラムの標準定員(60人)を超過した場合は、受講者数を調整することがある。

8. 新型コロナ感染予防

集合・対面型研修として実施する場合、プログラム事務局として、感染予防等に以下の体制をとる。
参加者の制限、入退場管理、会場の換気、参加者の健康観察とトレース等

9. その他

- (1) 本プログラムは、学校や教育委員会との連携・協働による「連続・積み上げ型研修」であり、受講生相互や関係者との自己開示、協働的関わり、ネットワーク形成をとおした連带的、主体的な成長を目指すものであることから、研修行事を優先(受講生による日程・用務調整)する姿勢を基本とする。

- (2) プログラム事務局の連絡先は次のとおりとする。

「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」事務局

〒753-8513 山口県山口市大字吉田1677-1

山口大学大学院教育学研究科・教育学部・NITS 山口大学センター

TEL&FAX 083-933-5458 E-mail m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp (霜川)

霜川、藤上、足立、大丸、岡田を主担当として、15人のスタッフチームで運営します!